

四條祇園橋ぎをんとて、昔は三條五條に等く官橋なり。久寿元年三月廿九日橋造替ありて供養の事、百練鈔に見へたり。

又安貞二年七月廿日暴風霖雨の時、洪水溢満して四條五條の橋流れ落る。貞和五年六月十一日祇園執行ぎをん、行意法師祇園橋わたを濟さんとて、本座新座の田楽を合せ、老若を集め四條河原に棧敷を打これを行ふ、希代の群集して見物す。〔異本太平記〕宝徳二年十月十八日四條河原橋成就して渡初あり。〔改曆雜記〕

四條河原橋にてよめる

草根集 橋板も今しら川につくるなり都にわたれ四方の旅人

正 徹

往昔むかしは官橋もありしが、洪水にて損じぬれば、後世仮橋にてゆき、をわたす、河原広くして觀物れうりやちやみせ貨食茶多し、特にみな月半ななかば、祇園ぎをんの夕涼に美艷よそほを粧ふ風姿のゆき、万燈水の流に輝き、河原表の壯觀、みな平天下の謳歌なるべし。

四 条 橋

月照シテ紅樓ヲ隱タリ翠楊。

徘徊倚テ檻ニ夜如レ霜。

栲 亭

蛾眉ノ長袖青糸騎。

箇箇写テ成影タシ也忙。

賀茂川の西岸に榻を下して

丈山の口が過たり夕すゞみ

蕪 村

四條納涼

涼しさや群集の中も水の月

定

雅

同じく

夕涼夜の都のにしきかな

浪花才

嬌